

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	技術者倫理	担当教員	田中秀和 (非常勤)	
学年学科	5 年 M・D・C 学科	前期 (M, D), 後期 (C)	必修	1 単位 (学修)
学習・教育目標	(A-2) 100%		JABEE 基準 1 (1): (b)	
授業の目標と期待される効果: 技術と技術者倫理に関する基礎知識を身につけ、技術者の社会的責任と身に付けるべき倫理観について、事例分析、グループ討論等によって、理解する。 ① 安全と安心、リスクの概要を理解し、それに関して議論できる ② 事故分析や事故の再発防止に関して議論できる ③ 製造物責任法の概要を理解し、それに関して議論できる ④ 知的財産権の概要を理解し、それに関して議論できる ⑤ 技術と技術者倫理について理解し、それに関する具体的な問題について議論できる		成績評価の方法: 期末試験 100 点+小テストとレポート 100 点 合計 200 点の得点率 (%) で評価する 達成度評価の基準: 以下に示す項目の成績評価への重みを、①15%, ②15%, ③15%, ④15%, ⑤40%とし、総合点の 6 割以上に達していること。 ① 安全と安心、リスクの概要を理解し、それに関して議論できること ② 事故分析や事故の再発防止に関して議論できること ③ 製造物責任法の概要を理解し、それに関して議論できること ④ 知的財産権の概要を理解し、それに関して議論できること ⑤ 技術と技術者倫理について理解し、それに関する具体的な問題について議論でき、倫理実行の方法を理解すること		
授業の進め方とアドバイス: 前半では、講義 (各学科ごとのクラスルーム) を中心とする。講義の際にはいくつかの事例を取り上げる。後半では事例研究 (グループ討論のため、80 人教室を希望) に多くの時間を割く。各事例について、教員の説明の後に少人数のグループ内で討論を行い、それを資料としてまとめ、発表して全体で討論を行う。グループ討論への積極的な参加が求められる。 教室外学修においては、事例研究やレポート作成時には綿密な調査を行う。また、グループ内討論の概要、自身の討論における発言内容、討論終了後の考察をレポートにまとめる。				
教科書および参考書: 教科書:「技術者の倫理 入門 (第 4 版)」(杉本泰治・高城重厚・丸善)、 事例研究参考資料:「技術者倫理事例集」(電気学会、オーム社)、「土木技術者倫理問題一考え方と事例解説 I、II」(土木学会)、「技術士の倫理 (改訂新版)」(日本技術士会)、「技術者倫理日本の事例と考察」(日本技術士会、丸善)、「技術者倫理」(杉本泰治・田中秀和・橋本義平、丸善) 等				
授業の概要と予定: 前期		教室外学修		
第 1 回: 技術者倫理とは、倫理と技術者倫理との違い				
第 2 回: 技術者と組織、利益の相反		レポート作成		
第 3 回: 安全と安心、リスク				
第 4 回: 事故調査と再発防止		レポート作成		
第 5 回: 製造物責任法 (PL 法)				
第 6 回: 知的財産権		レポート作成		
第 7 回: 内部告発 (公益通報者保護法と警笛鳴らし)				
第 8 回: 組織と倫理綱領		レポート作成		
第 9 回: 倫理実行の方法 (線引き法、黄金律)、事例研究の進め方				
第 10 回: 事例研究 1: グループ討論		調査		
第 11 回: 事例研究 1: プレゼンテーション、全体討論		レポート作成		
第 12 回: 倫理実行の方法 (トレードオフ法、セブンステップガイド、学会等のガイドによる)				
第 13 回: 事例研究 2: グループ討論		調査		
第 14 回: 事例研究 2: プレゼンテーション、全体討論		レポート作成		
第 15 回: 技術者の社会的責任、科学技術者の倫理、まとめ				
期末試験		-		
第 16 回: フォローアップ (期末試験の解答の解説など)		-		